数値地図（国土基本情報）等閲覧ツール利用ガイド

2025 年 3 月

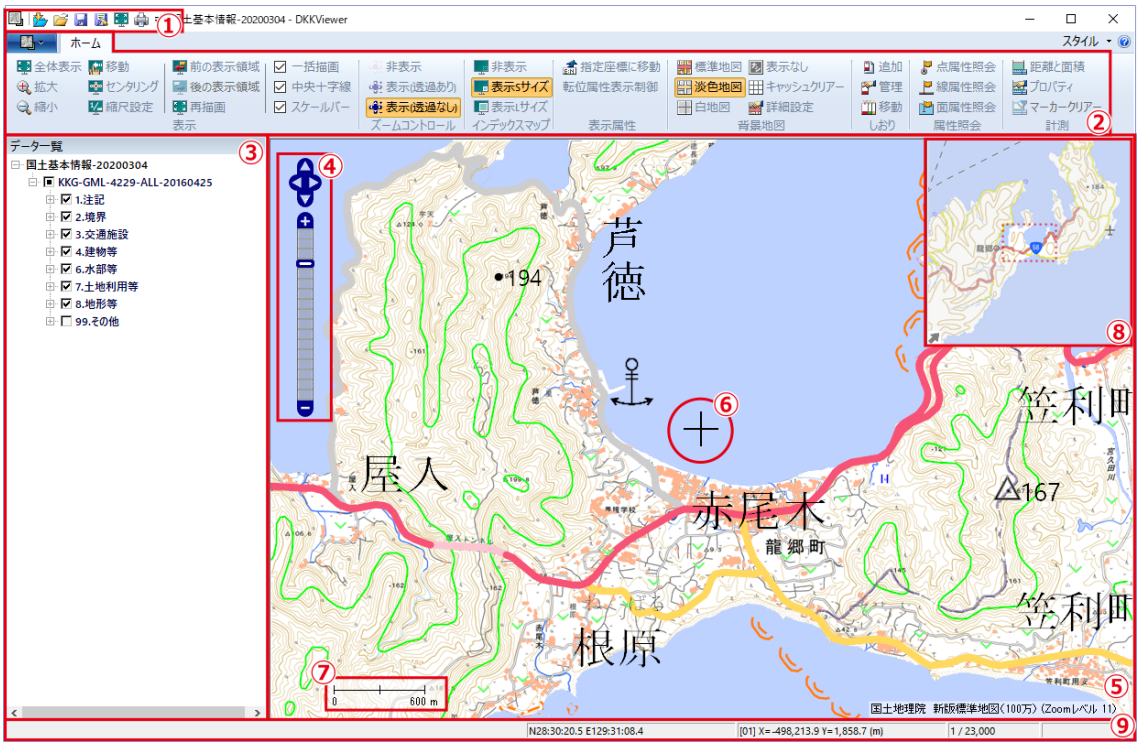
国土地理院

目　次

1.ウィンドウ構成 1
2.各メニュー簡易説明 3
2-1.クイックアクセスツールバー 3
2-2.[スタート]タブ（ ） 4
2-3.［ホーム］リボン 5
3.［スタート］タブ 7
3-1.データインポート 7
3-2.プロジェクトを開く 8
3-3.プロジェクトを上書き保存 9
3-4.プロジェクトを名前を付けて保存 9
3-5.画像として保存 10
3-6.印刷 11
3-7.環境設定 13
3-8.バージョン情報等 14
3-9.利用ガイドを開く 14
3-10. 最近使用したドキュメント 15
3-11.アプリケーションの終了 15
4［ホーム］リボン-［表示］ 16
4-1.全体表示 16
4-2.拡大 16
4-3.縮小 17
4-4.移動 17
4-5.センタリング 17
4-6.縮尺設定 18
4-7.前の表示領域、後の表示領域 18
4-8.再描画 18
4-9.一括描画 18
4-10.中央十字線 19
4-11.スケールバー 19
5.［ホーム］リボン-［ズームコントロール］ 20
5-1.非表示 20
5-2.表示（透過あり） 20
5-3.表示（透過なし） 20
6.［ホーム］リボン-［インデックスマップ］ 21
6-1.非表示 21
6-2.表示 S サイズ 22
6-3.表示 L サイズ 22
7.［ホーム］リボン-［表示属性］ 23
7-1.指定座標に移動 23
7-2.転位属性表示制御 24
8. ［ホーム］リボン-［背景地図］ 25
8-1.標準地図 25
8-2.淡色地図 25
8-3.白地図 26
8-4.表示なし 26
8-5.キャッシュクリアー 27
8-6.表示設定 27
9. ［ホーム］リボン-［しおり］ 28
9-1.追加 28

9-2.管理 28
9-3.移動 28
10. ［ホーム］リボン-［属性照会］ 29
10-1.点属性照会/線属性照会/面属性照会 29
11. ［ホーム］リボン-［計測］ 31
11-1.距離と面積 31
11-2.プロパティ 33
11-3.マーカークリアー 33
12. ［データ一覧］右ポップアップ 34
12-1.表示/非表示 34
12-2.このデータの領域表示 34
12-3.透過率 34
12-4.KML/KMZ へのエクスポート 35
12-5.タイトル変更 36
12-6.属性表示設定 37
12-7.線描画/面描画設定 38
12-8.シンボル描画設定 40

1.ウィンドウ構成



① クイックアクセスツールバー

よく使うメニューを登録してあります。

② リボンバー

各種メニューを実行できます。

③ データ一覧バー

読み込んだデータが表示されます。

④ ズームコントロール

ズームコントロールバーにより表示縮尺を変更できます。

⑤ ワークブック

作業の中心となるウィンドウです。必要に応じて地理院地図データを表示できます。

⑥ 中央十字線

中心位置が十字線で表示されます。

⑦ スケールバー

現在の表示縮尺に応じたスケールバーが表示されます。

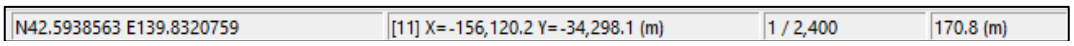
⑧ インデックスマップ

矢印をクリックすると、インデックスマップが表示されます。再度クリックすると、非表示になります。

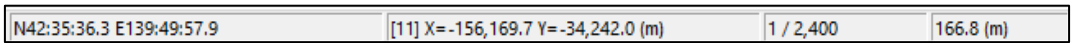
⑨　ステータスバー

緯度経度、縮尺、標高値（標高メッシュが登録されている場合）が表示されます。

ステータスバーに表示されるマウスカーソルの位置座標の表示形式を、[緯度経度　10 進数表記]と、[緯度経度　60 進数表記]から選択することができます。



10 進数表記



60 進数表記

2.各メニュー簡易説明

2-1.クイックアクセスツールバー

アイコン	メニュー名/内容
	アプリケーションのアイコン
	クリックするとコントロールメニューが表示されます。
	データインポート
	GML/SHP ファイルを取り込んでプロジェクトを生成します。
	プロジェクトを開く
	保存されたプロジェクトを開きます。
	保存
	作業中のドキュメントを上書き保存します。
	名前をつけて保存
	作業中のドキュメントに新しい名前を付けて保存します。
	全体表示
	プロジェクトの全域を表示します。
	印刷
	[印刷]ダイアログボックスが表示され、印刷を行います。
	クイックアクセスツールバーのカスタマイズ
	リボンの表示位置、表示/非表示を設定します。

2-2.[スタート]タブ（ ）

アイコン	メニュー名/内容
	データインポート
	GML/SHP ファイルを取り込んでプロジェクトを生成します。
	プロジェクトを開く
	保存されたプロジェクトを開きます。
	プロジェクトを上書き保存
	作業中のドキュメントを上書き保存します。
	プロジェクトを名前を付けて保存
	作業中のドキュメントを新しい名前で保存します。
	画像として保存
	作業中の画面から矩形領域として、その画像を保存します。
	印刷
	[印刷]ダイアログボックスが表示され、印刷を行います。
	環境設定
	このアプリケーションのシステム環境設定を行います。
	バージョン情報等
	[DKKV]についてダイアログボックスにバージョン情報を表示します。
	利用ガイドを開く
	このドキュメントが開かれます。

2-3.[ホーム]リボン

アイコン	メニュー名/内容
	[表示]-[全体表示]
	プロジェクトの全域を表示します。
	[表示]-[拡大]
	データの表示倍率を大きくします。
	[表示]-[縮小]
	データの表示倍率を小さくします。
	[表示]-[移動]
	表示領域を移動します。
	[表示]-[センタリング]
	表示領域の移動をセンタリングモードで行います。
	[表示]-[縮尺設定]
	画面上でのおおよその表示縮尺を設定します。
	[表示]-[前の表示領域]
	現在の表示領域の 1 段階前の領域に表示を戻します。
	[表示]-[後の表示領域]
	[前の表示領域]で戻された表示領域を履歴の中で 1 つ先に進めます。
	[表示]-[再描画]
	ウィンドウを再描画します。
☑ 一括描画	[表示]-[一括描画]
	ON の時、一括で描画します。OFF の時は、読み込んだ順に表示されます。
☑ 中央十字線	[表示]-[中央十字線]
	中央十字線の表示状態を切替ます。
☑ スケールバー	[表示]-[スケールバー]
	スケールバーの表示状態を切り替えます。
	[ズームコントロール]-[非表示]
	ズームコントロールを非表示にします。
	[ズームコントロール]-[表示(透過あり)]
	ズームコントロールを半透明の状態で表示します。 ズームコントロール上にマウスを合わせると透過なしになります。
	[ズームコントロール]-[表示(透過なし)]
	ズームコントロールを透過なしの状態で表示します。
	[インデックスマップ]-[非表示]
	インデックスマップを非表示にします。
	[インデックスマップ]-[表示 S サイズ]
	インデックスマップを S サイズで表示します。
	[インデックスマップ]-[表示 L サイズ]
	インデックスマップを L サイズで表示します。
	[表示属性]-[指定座標に移動]
	ダイアログボックスで指定した座標に移動します。
転位属性表示制御	[表示属性]-[転位属性表示制御]
	国土基本情報 20 万データで転位属性に応じて表示・非表示を設定します。
	[背景地図]-[標準地図]
	表示する地理院地図を標準地図にします。

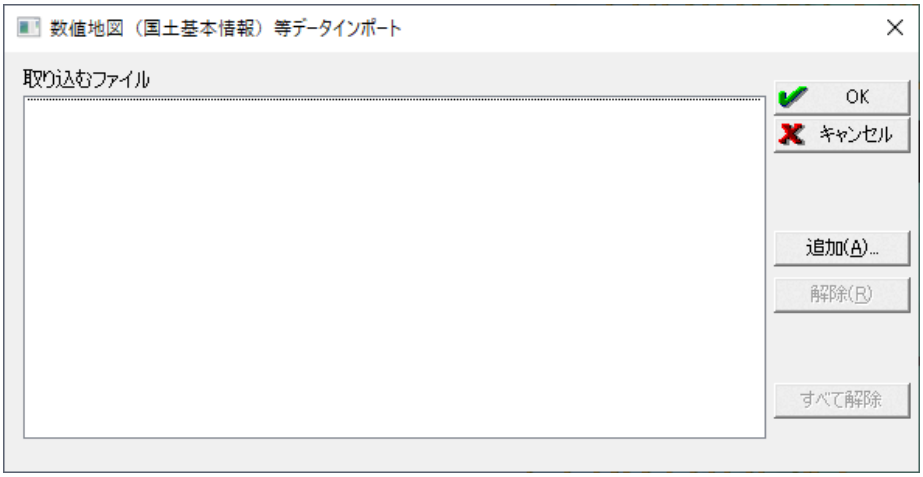
	[背景地図]-[淡色地図]
	表示する地理院地図を淡色地図にします。
	[背景地図]-[白地図]
	表示する地理院地図を白地図にします。
	[背景地図]-[表示なし]
	地理院地図を非表示にします。
	[背景地図]-[キャッシュクリアー]
	ファイルとして保存されている地理院地図のキャッシュを一旦破棄します。
	[背景地図]-[表示設定]
	国土地理院が配信する地理院地図の表示設定を行います。
	[しおり]-[追加]
	現在の表示領域に名前を付けて記録します。
	[しおり]-[管理]
	しおりのタイトル変更、削除を行います。
	[しおり]-[移動]
	プルダウンに最近保存したしおりの一覧が表示されます。
	[属性照会]-[点属性照会]
	指定した点の属性照会を行います。
	[属性照会]-[線属性照会]
	指定した線の属性照会を行います。
	[属性照会]-[面属性照会]
	指定した面の属性照会を行います。
	[計測]-[距離と面積]
	図上で、線を描くように距離と面積を計測します。
	[計測]-[プロパティ]
	計測の詳細設定を行います。
	[計測]-[マーカークリアー]
	計測マーカーを削除します。

3. ［スタート］タブ

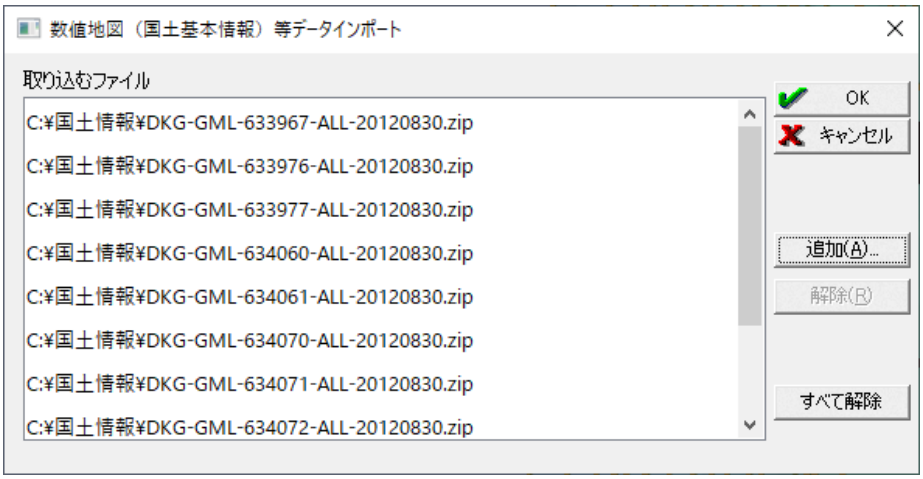
3-1.データインポート

数値地図（国土基本情報）等のデータファイルをインポートします。

① メニューを実行すると、[**数値地図（国土基本情報）等データインポート**]ダイアログボックスが表示されます。



② **【追加】**ボタンをクリックすると、[**開く**]ダイアログボックスが表示されます。



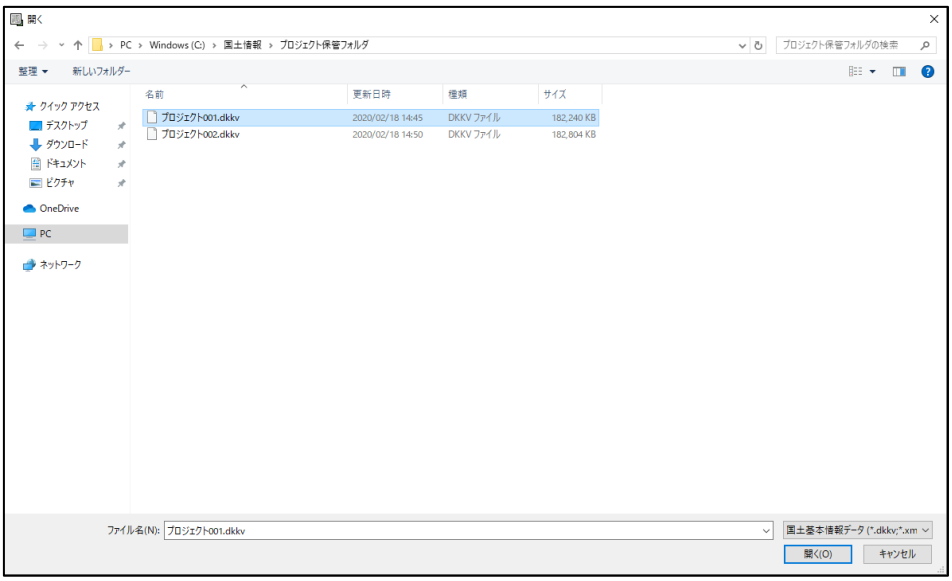
読み込む GML ファイル、Shape ファイル又は ZIP ファイルを指定し、**【開く】**ボタンをクリックすると、「**取り込むファイル**」一覧にデータが登録されます。リストからデータを選択し、**【解除】**ボタンをクリックすると登録を解除します。**【すべて解除】**ボタンをクリックすると、リストからすべての登録を解除します。

【OK】ボタンをクリックすると、インポートを開始します。

3-2.プロジェクトを開く

既存の「国土基本情報閲覧ツールプロジェクトファイル(*.dkkv)」を開きます。

① メニューを実行すると、[開く]ダイアログボックスが表示されます。



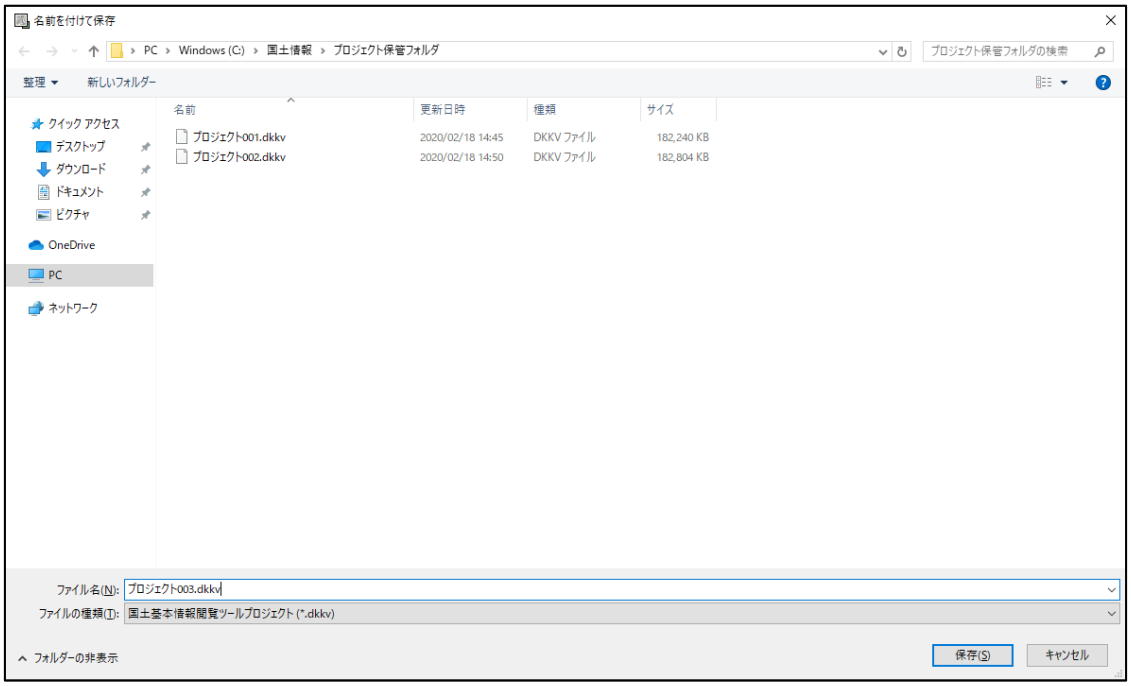
② 保存したファイルを選択し、【開く】ボタンをクリックすると、プロジェクトファイルが表示されます。
キーボードの【Esc】キーをクリックすると、読み込みを途中で中止できます。

3-3.プロジェクトを上書き保存

数値地図（国土基本情報）等閲覧ツールに表示されている状態をプロジェクトファイルに上書き保存します。
メニューを実行するとただちに保存を実行します。一度も保存していない場合は、[**名前を付けて保存**]ダイアログボックスが表示されますので、名前を付けて、**【保存】**ボタンをクリックしてください。

3-4.プロジェクトを名前を付けて保存

数値地図（国土基本情報）等閲覧ツールに表示されている状態をプロジェクトファイルに名前を付けて保存します。メニューを実行すると［**名前を付けて保存**]ダイアログボックスが表示されますので、名前を付けて、**【保存】**ボタンをクリックしてください。

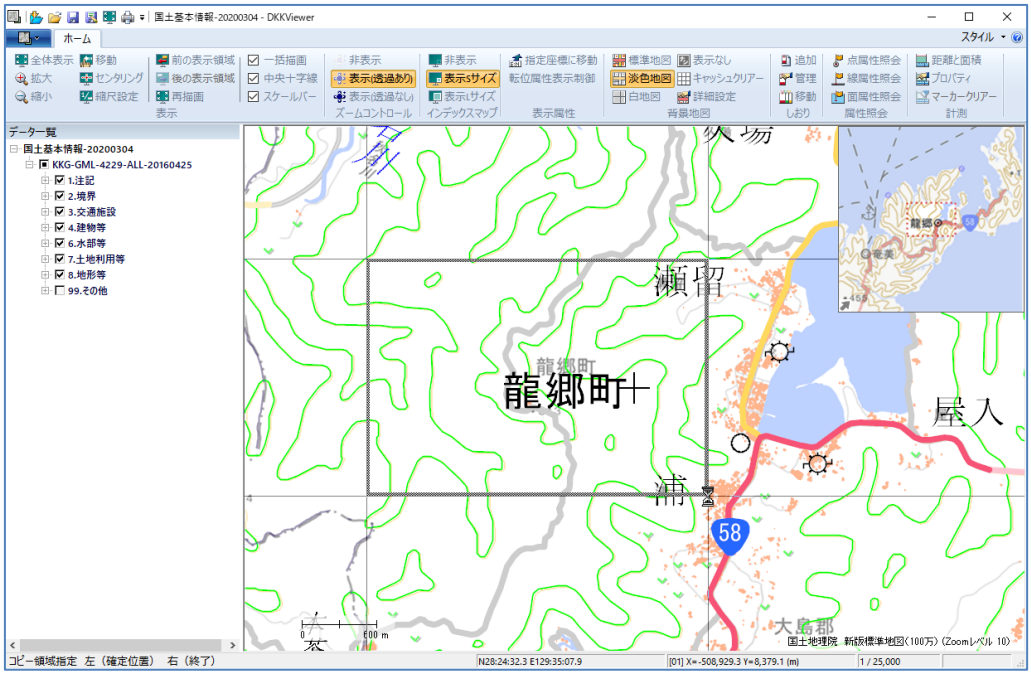


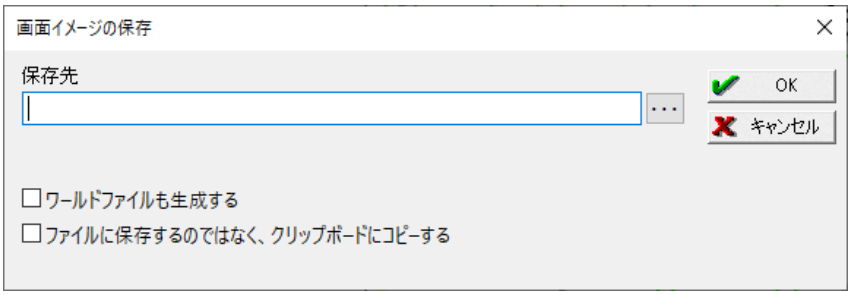
数値地図（国土基本情報）等のデータを読み込んでいる場合は、そのデータも合わせて「国土基本情報閲覧ツールプロジェクトファイル(*.dkkv)」に保存します。

3-5.画像として保存

① メニューを実行すると、カーソルがクロスヘアカーソルになり、領域指定モードに入ります。

② 出力する矩形領域をドラッグで指定してください。指定する前に、キーボードの矢印キー（→←↑↓）で画面をスクロールすることができます。
ボタンを離すと、[**画面イメージの保存**]ダイアログボックスが表示されます。





③ 保存先とオプションを指定して【OK】ボタンをクリックすると、指定した画像ファイルに保存します。この時、BMP、TIFF、PNG 形式での保存が可能です。

3-6.印刷

メニューを実行すると、[印刷]ダイアログボックスが表示されます。
ラジオボタンから印刷方法を選択し、プレビューウィンドウに表示されるプレビューを参照しながら印刷範囲及び縮尺を設定してください。
【OK】ボタンをクリックすると印刷を実行します。

◉現在の表示領域を、指定した縮尺で印刷します

地図の領域と、このダイアログボックスの下部にある「縮尺」に入力した縮尺分母の2つのパラメーターにより印刷を行います。

◉現在の表示領域を、現在のプリンターの設定用紙に(目いっぱいの大きさで)印刷します

地図の領域と、印刷する用紙サイズの 2 つのパラメーターにより印刷を行います。縮尺は自動設定されます。

◉現在の表示領域を中心として、縮尺を指定して、現在のプリンターの設定用紙に(目いっぱいの大きさで)印刷します

印刷する用紙のサイズと、縮尺の 2 つのパラメーターにより印刷を行います。
縮尺によっては、現在の表示領域が全て印刷されない場合や、現在の表示領域の外側まで印刷される場合もあります。

[イメージにして印刷する]チェックボックス

ON の場合、内部的にイメージ変換処理を行ってから印刷します。

[紙印刷はせずにイメージをクリップボードに貼り付けます]チェックボックス

ON の場合、クリップボードに貼り付けられ、他の Windows アプリケーションで利用できます。

［紙印刷はせずにイメージをファイルに保存します］チェックボックス

ON の場合、イメージファイルとして指定したファイル名で保存します。この時、BMP 及び PNG 形式での保存が可能です。

解像度

［イメージを作成してクリップボードに貼り付けます］及び［イメージを作成してファイルに保存します］のオプションに関しては、解像度を 100dpi、200dpi、300dpi、400dpi の中から選択できます。

【プリンタ選択】ボタン

プリンターの選択やプリンター側の用紙の設定、印刷方向の設定等を行います。
このボタンをクリックすると［プリンターの設定］ダイアログボックスが表示されますので、設定を行い【OK】ボタンを押して下さい。

「スケールバー」チェックボックス

印刷時に、スケールバーも合わせて印刷します。

一般的に使用される縮尺がドロップダウンリストに表示されます。該当する縮尺がある場合はここで「縮尺」の設定を行えます。また、ユーザーが任意に設定した「縮尺」や最近使用した「縮尺」は履歴としてリスト上に追加されます。

3-7.環境設定

このアプリケーションの環境設定を行います。
メニューを実行すると［環境設定］ダイアログボックスが表示されます。

「システム」
チェックボックスが ON の項目を反映します。

「インデックスマップ」
インデックスマップのサイズ、位置、縮尺設定を行います。

「KML/KMZ エクスポート」
KML/KMZ エクスポートする際の注記の位置を選択します。

3-8.バージョン情報等

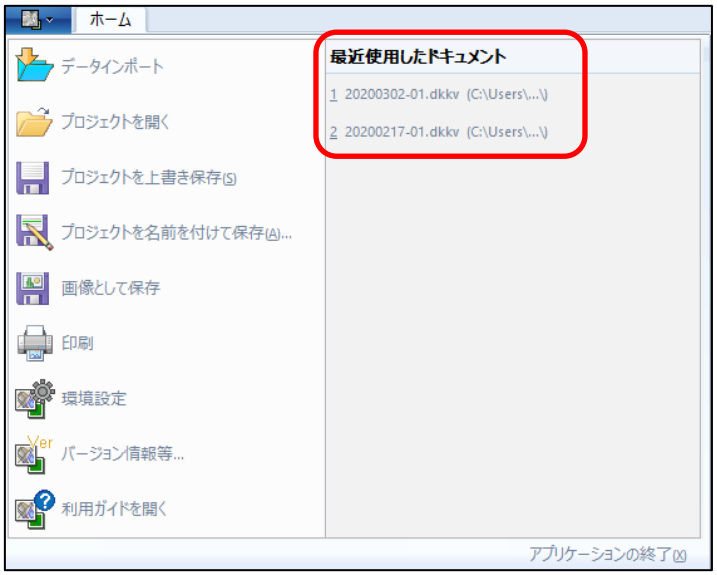
メニューを実行すると、数値地図（国土基本情報）等閲覧ツールのバージョン情報を表示した［DKKV について］ダイアログボックスを表示します。

3-9.利用ガイドを開く

メニューを実行すると、このファイルを表示します。

3-10. 最近使用したドキュメント

ファイルを保存した場合、最近使ったファイルとしてファイル名が一覧で表示されます。



3-11.アプリケーションの終了

このアプリケーションを終了します。
数値地図（国土基本情報）等のデータを読み込んだ後に一度も保存していない場合は、プロジェクトの保存を確認するメッセージボックスが表示されます。

4［ホーム］リボン-［表示］

4-1.全体表示

読み込んだデータの領域全体が入る状態を表示します。

4-2.拡大

操作には 2 通りの方法がありますので、場合により使い分けてください。

(1) 中心任意拡大モード

指定した 1 点を中心として拡大します。

1. メニューを選択すると、ズームインアイコンが表示されます。
2. 拡大する位置にカーソルを動かします。
3. マウスの左ボタンをクリックします。

(2) 範囲指定モード

拡大する範囲をユーザーが指定して実行します。

1. メニューを選択すると、ズームインアイコンが表示されます。
2. 拡大する範囲の四隅点位置にカーソルを動かします。
   マウスの左ボタンをクリックすると拡大フレームが表示されますので、ボタンを押したままマウスを動かします(ドラッグ)。この時、どの方向にも動かすことが可能です。
3. 拡大する領域が決定したら、マウスの左ボタンを離します。

マウス操作

コマンドモードでない状態(白矢印のマウスポインタが表示されている状態)では、3 つボタンマウスの中ボタンで拡大操作を行うことができます。
2 つボタンマウスの場合はキーボードの Ctrl キーを押しながらマウスの左ボタンを押します。
ホイールつきマウスのホイールを奥に回転すると、拡大ズームします。手前に回転すると、縮小ズームします。
また、Ctrl キー押下でマウス位置を中心に拡大ズームとなります。
計測メニュー等のコマンド実行中で、クロスヘアカーソルや十字ポインタが表示されている状態では使えません。

4-3.縮小

メニューを実行すると、ズームアウトアイコンになりますので、縮小中心位置に移動し、マウスの左ボタンをクリックしてください。

マウス操作

コマンドモードでない状態（白矢印のマウスポインタが表示されている状態）では、キーボードの Ctrl キーを押しながらマウスの右ボタンをクリックすると、縮小操作を行うことができます。この場合、ボタンをクリックする前にマウスカーソルを縮小中心位置に移動して下さい。
計測メニュー等のコマンド実行中で、クロスヘアカーソルや十字ポインタが表示されている状態では使えません。

4-4.移動

1. メニューを実行すると、データ領域内に十字矢印形をしたカーソルが表示されて、移動コマンド状態に入ります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、ボタンを押したままマウスを動かし（ドラッグし）ます。この時、画面も同時にスクロールします。
3. マウスの左ボタンを離すと、その位置でスクロールが止まり、移動が確定します。

マウス操作

コマンドモードでない状態（白矢印のマウスポインタが表示されている状態）では、マウスの左ボタンを長クリックすると、移動コマンド状態に入ります。

4-5.センタリング

1. メニューを実行すると、データ領域内にクロスヘアカーソルが表示されて、センタリングコマンド状態に入ります。
2. マウスの左ボタンを押した位置を画面の中心に移動します。

4-6.縮尺設定

メニューを実行すると、[**表示縮尺設定**]ダイアログボックスが表示されます。

設定を行った後に【OK】ボタンをクリックすると、設定した縮尺で表示されます。
現在の表示縮尺より大きな縮尺（縮尺分母が小さくなる）を指定した場合で、
「**あとで、表示位置を設定する**」チェックボックスが ON の時は、ダイアログボックスを閉じた後に拡大枠が表示されます。
マウスで拡大したい部分に動かして左ボタンを押してください。

4-7.前の表示領域、後の表示領域

メニューを実行すると、現在の表示領域の 1 段階前もしくは後の領域に表示を戻します。
1 度も表示領域の変更（拡大・縮小・移動等）を行っていない場合や、これ以上古い表示領域履歴がない場合、このメニューは使えません。

4-8.再描画

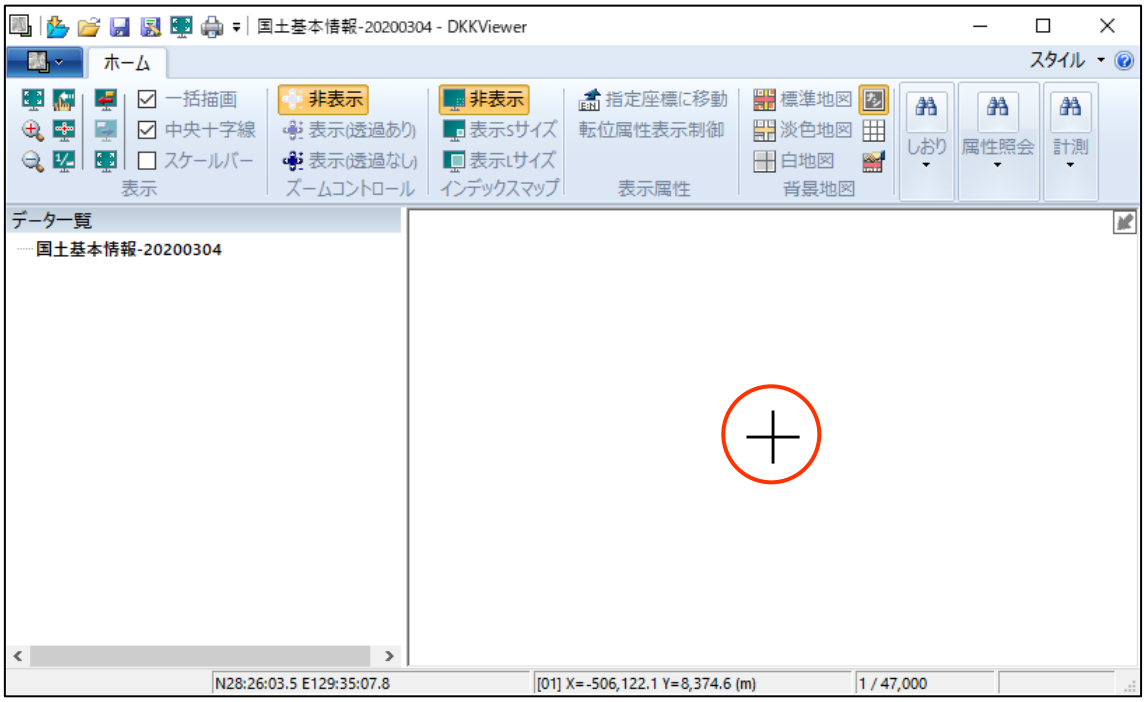
再描画を行いたいときに利用します。
キーボードの【F5】キーでも同じ動作をします。

4-9.一括描画

画面上の拡大･縮小･移動等により再描画を行う際に、内部的に描画を行った後、画面上に表示します。表示に時間のかかるデータの場合、描画が徐々に行われることがありますが、それを一括描画したい場合に ON にして使用します。

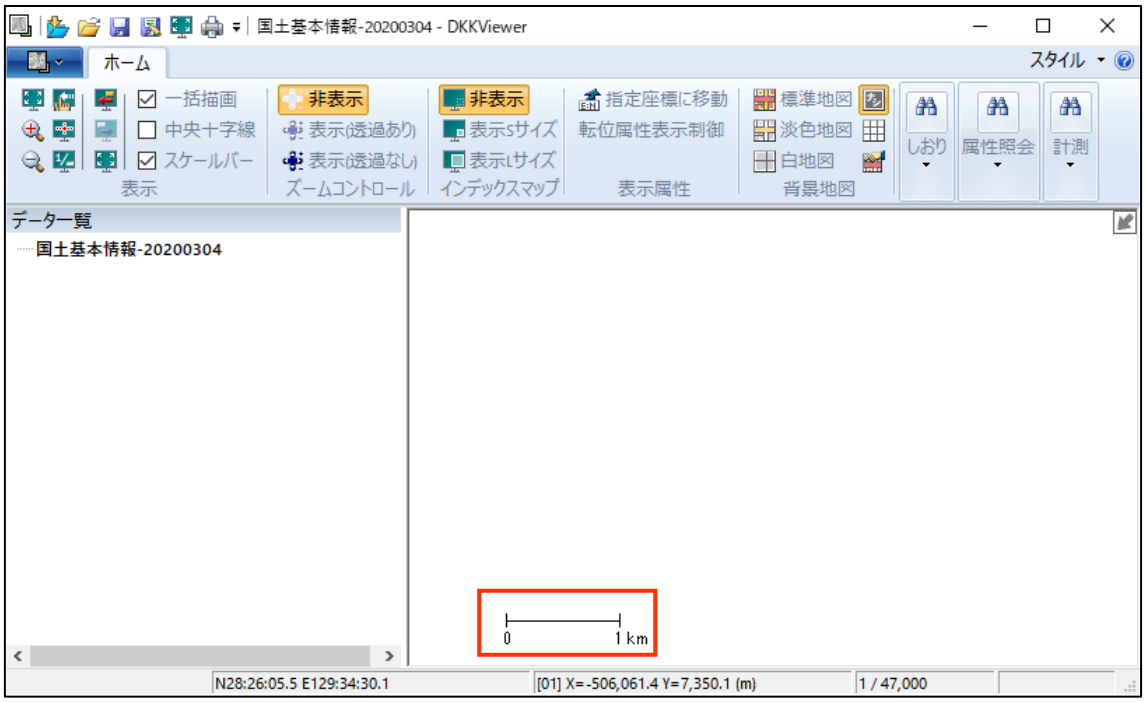
4-10.中央十字線

中心位置の十字線の表示・非表示を切り替えます。



4-11.スケールバー

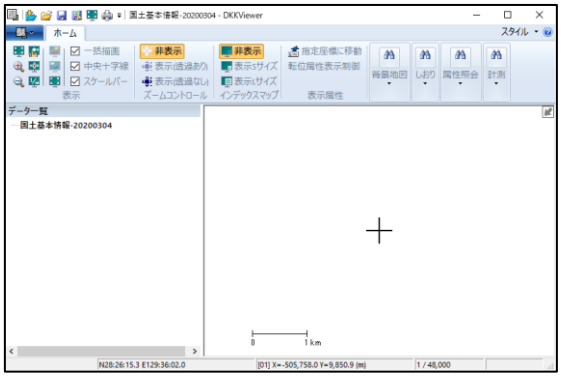
スケールバーの表示・非表示を切り替えます。



5. ［ホーム］リボン-［ズームコントロール］

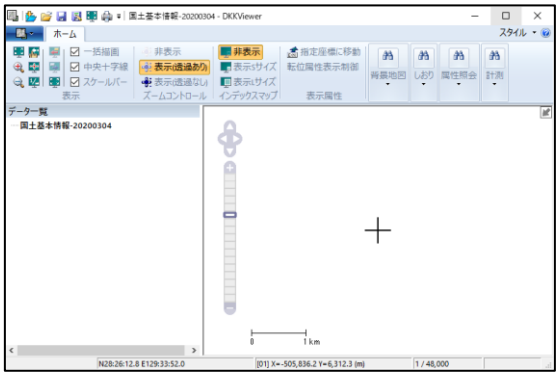
5-1.非表示

ズームコントロールを非表示にします。



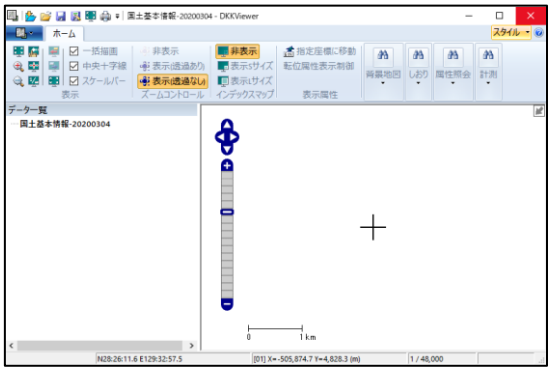
5-2.表示（透過あり）

ズームコントロールを半透明で表示します。
ズームコントロール上にマウスを合わせると透過なしになります。



5-3.表示（透過なし）

ズームコントロールを透過なしで表示します。

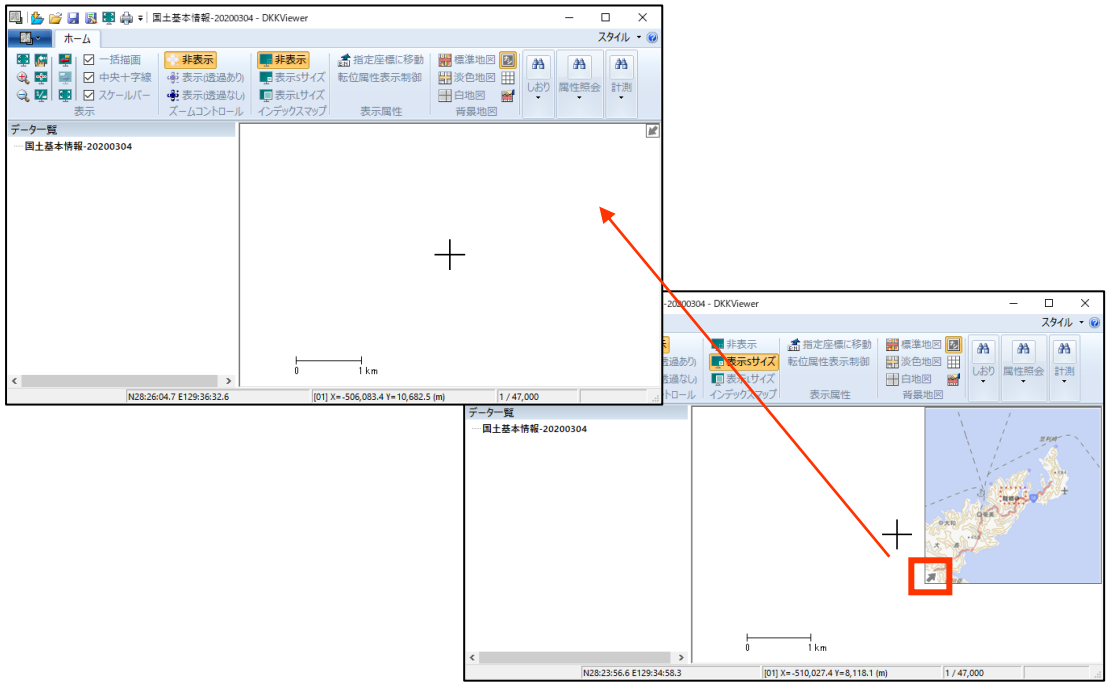


6. ［ホーム］リボン-［インデックスマップ］

インデックスマップの非表示、S サイズ表示、L サイズ表示を切り替えます。
［スタート］タブ-［環境設定］で、それぞれのサイズの変更、表示位置、小縮尺係数の設定を行うことができます。
インデックスマップ上の赤点線枠内をマウスでドラッグすると、連動してメインウィンドウに該当位置を表示することができます。

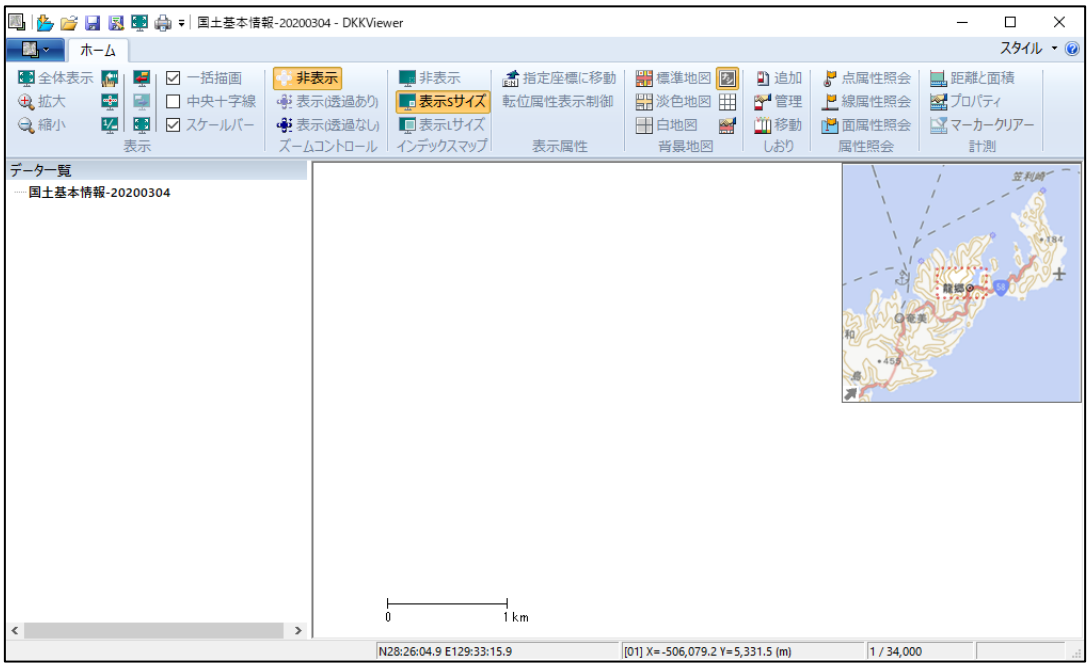
6-1.非表示

インデックスマップを非表示にします。
表示状態のインデックスマップの矢印アイコンをクリックすることでも非表示に変更できます。



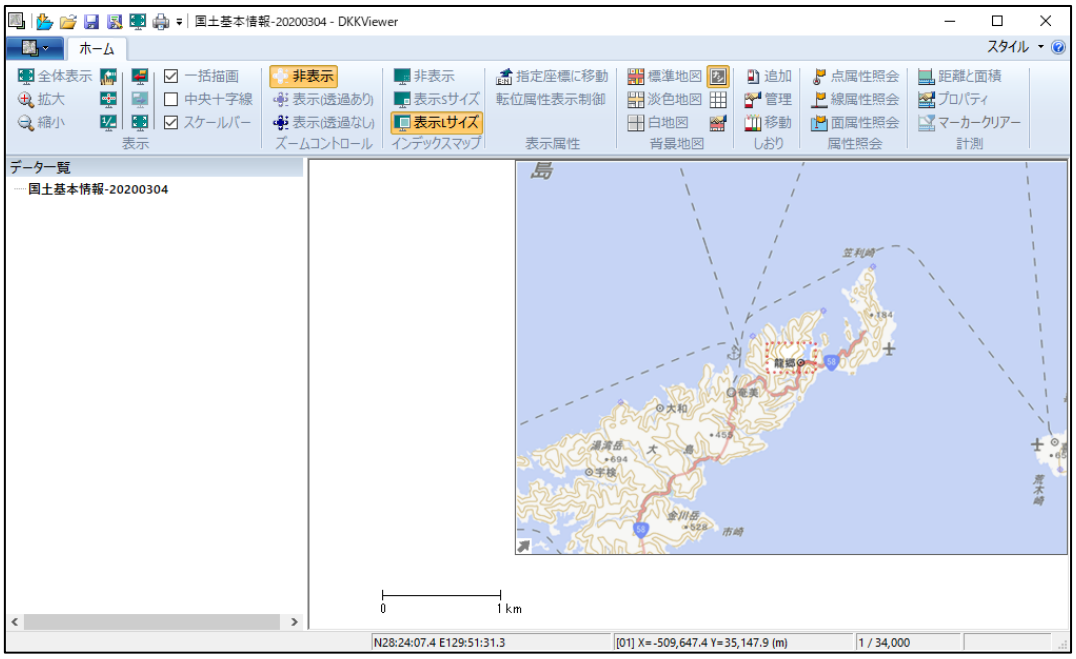
6-2.表示 S サイズ

S サイズのインデックスマップを表示します。



6-3.表示 L サイズ

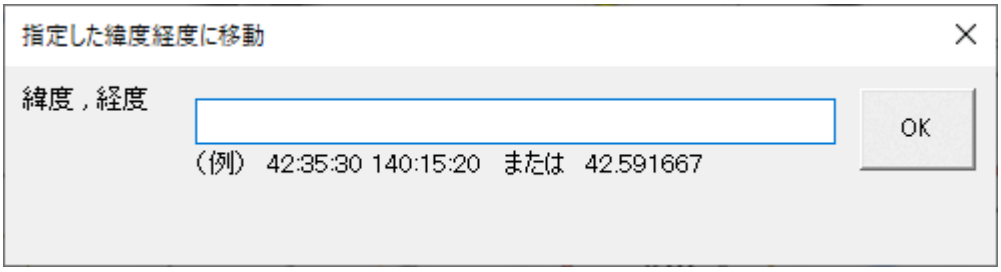
L サイズのインデックスマップを表示します。



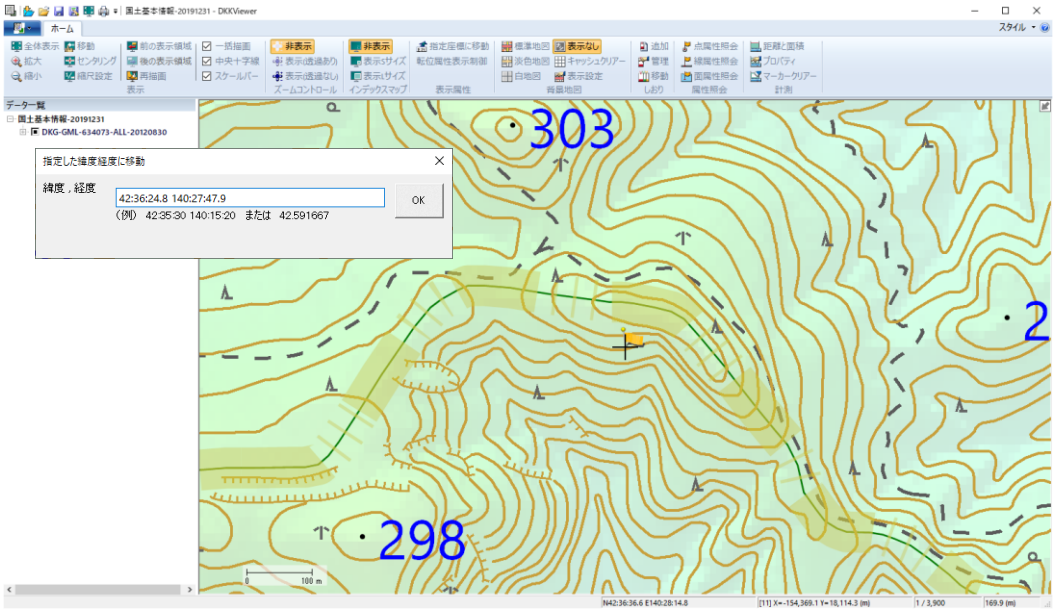
7. ［ホーム］リボン-［表示属性］

7-1.指定座標に移動

① メニューを実行すると、[**指定した緯度経度に移動**]ダイアログボックスが表示されます。

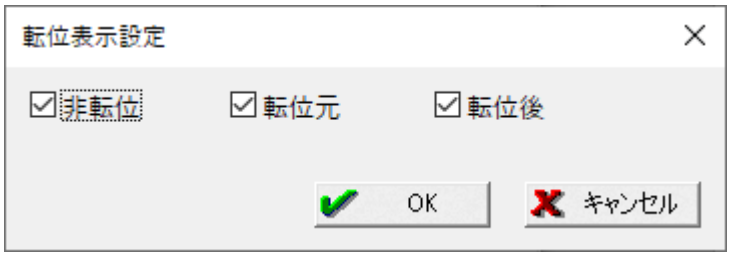


② 緯度経度の値を入力して【OK】ボタンをクリックすると、該当箇所を表示します。
緯度経度は、「度：分：秒」又は「度」のいずれかの単位で入力します。
緯度と経度の値は、半角カンマ、半角スペース、全角スペースのいずれかで区切ります。



7-2.転位属性表示制御

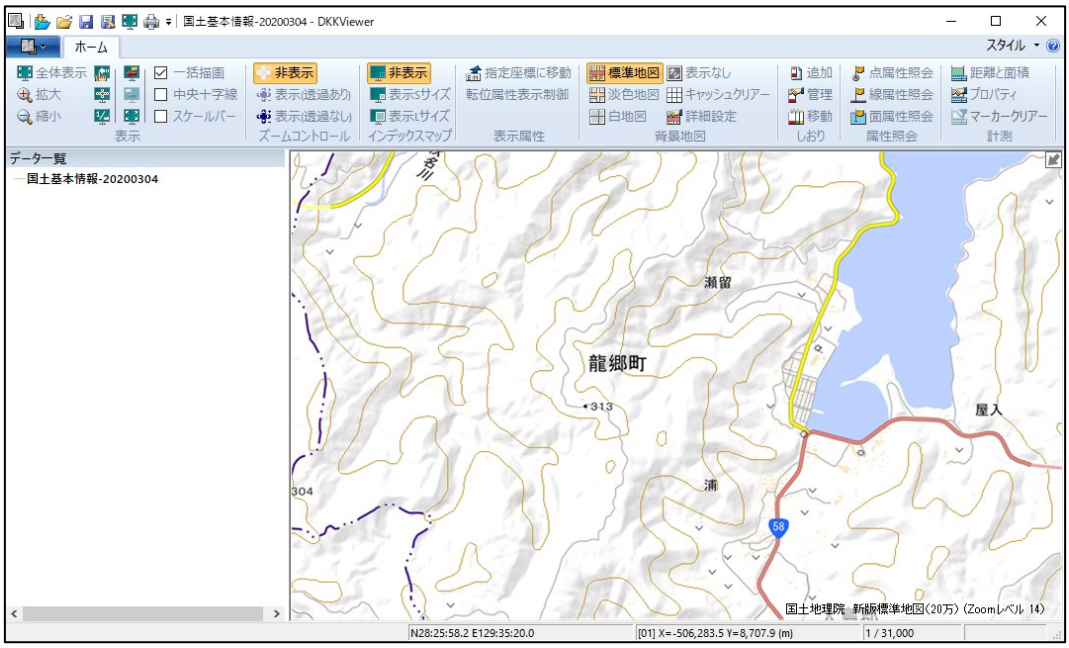
国土基本情報 20 万データの転位属性に応じて表示・非表示を設定します。
メニューを実行すると、[転位表示設定] ダイアログボックスが表示されます。
表示する属性を ON にして、【OK】ボタンをクリックすると設定が反映されます。



8. ［ホーム］リボン-［背景地図］

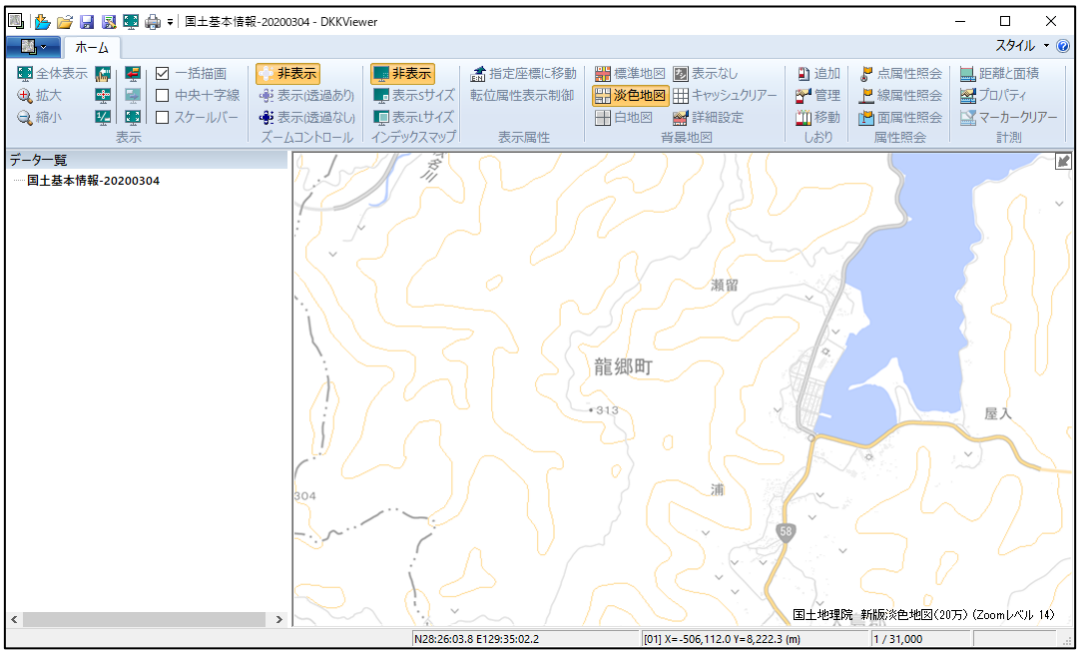
8-1.標準地図

表示する地理院地図を標準地図に変更します。



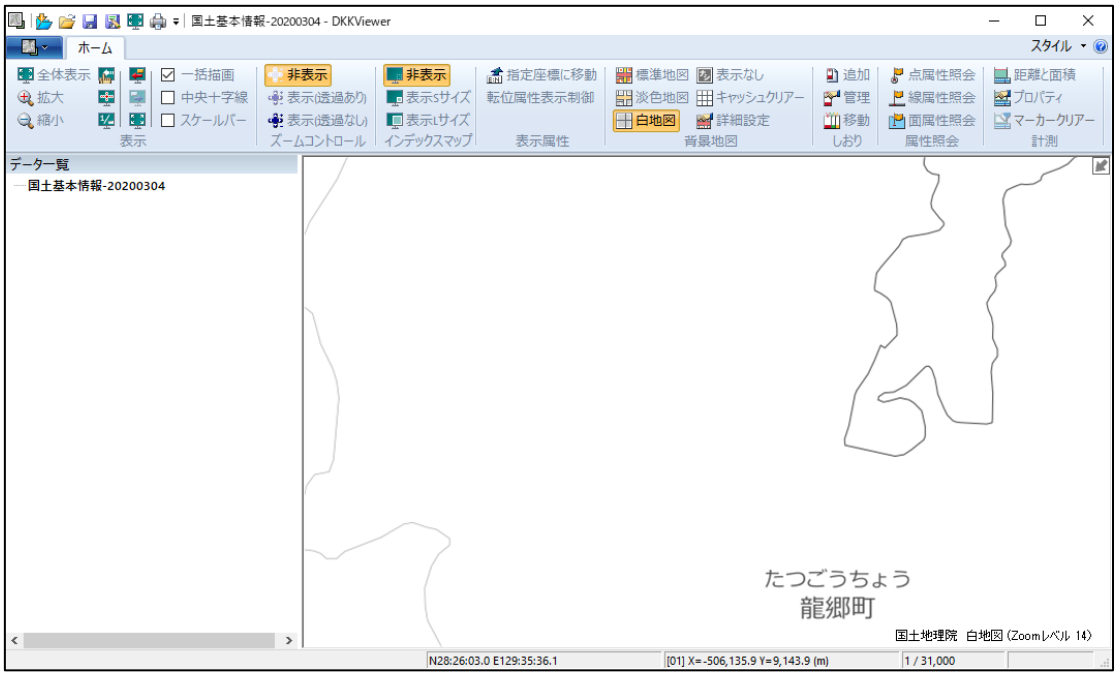
8-2.淡色地図

表示する地理院地図を淡色地図に変更します。



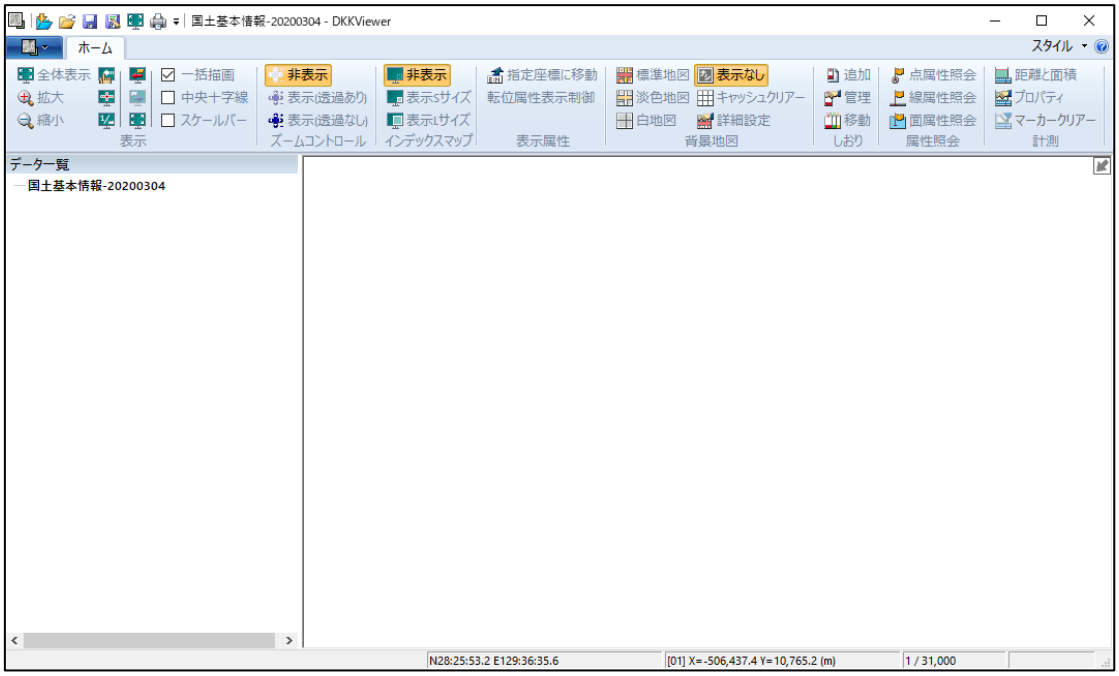
8-3.白地図

表示する地理院地図を白地図に変更します。



8-4.表示なし

地理院地図を非表示にします。

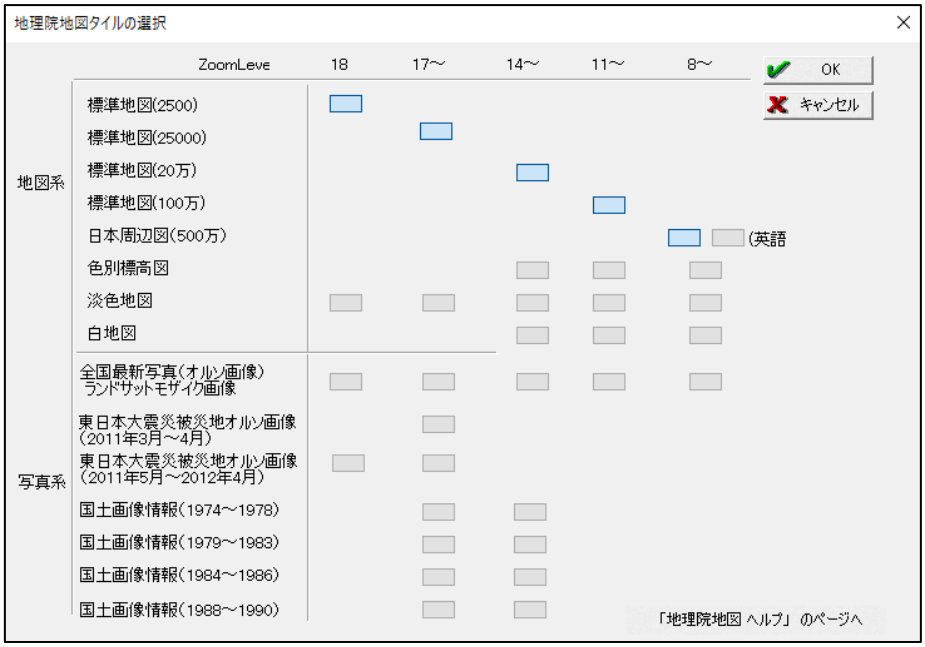


8-5.キャッシュクリアー

メニューを実行すると、ハードディスクに保存されているキャッシュファイルをクリアーして、最新のデータを取得します。地理院地図データが更新された場合は、このメニューを実行することで新しい地図情報が表示されます。
なお、キャッシュファイルは、プログラム終了時にディスクの空き領域の 10 分の 1 より大きい場合に自動で削除されます。

8-6.表示設定

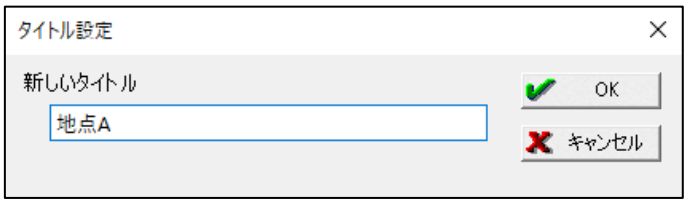
背景地図として表示する地理院地図を標準地図、淡色地図、白地図から選択できます。
メニューを実行すると開く[**地理院地図タイルの選択**]ダイアログボックスで、詳細な表示設定を行うことができます。
[地理院地図タイルの選択]ダイアログボックスでは、表示する背景地図を拡大率ごとに選択できます。選択した地図は ON の状態 になります。選択していない地図は OFF の状態 になります。各ズームレベルに対して、必ずどれか一つが選択された状態になります。

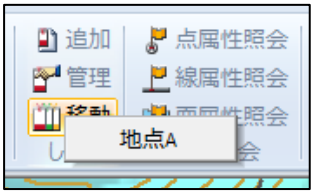


9. ［ホーム］リボン-［しおり］

9-1.追加

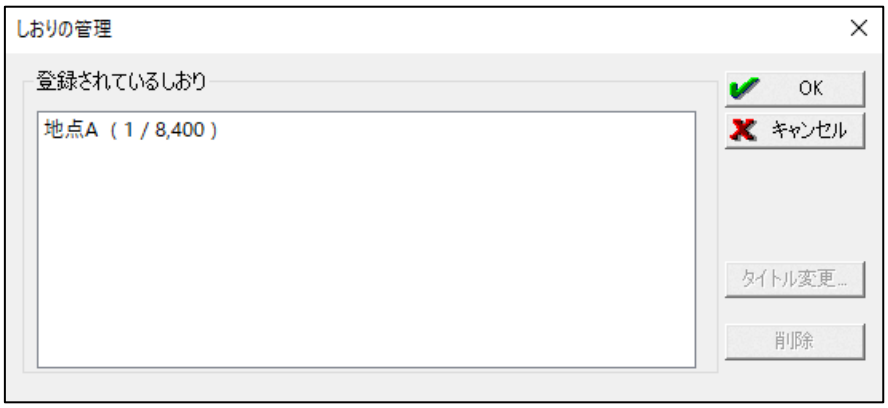
現在表示している領域を、名前を付けて記録します。
メニューを実行すると、[**タイトル設定**]ダイアログボックスが表示されます。
設定を行い、【OK】ボタンをクリックすると、[**移動**]**メニュー**にタイトル名がポップアップでリスト表示されます。





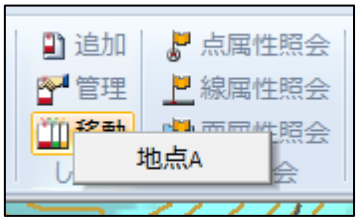
9-2.管理

メニューを実行すると、[**しおりの管理**] ダイアログボックスが表示されます。
現在登録されているしおりのタイトル変更と、しおりの削除が行えます。



9-3.移動

メニューを実行すると、現在登録されているしおりの一覧がポップアップで表示されます。選択した地点にただちに移動します。

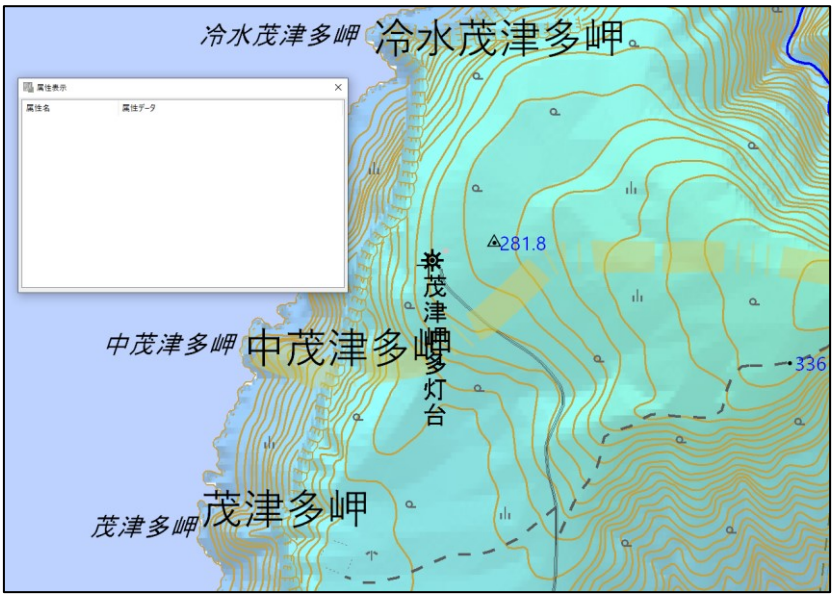


10. ［ホーム］リボン-［属性照会］

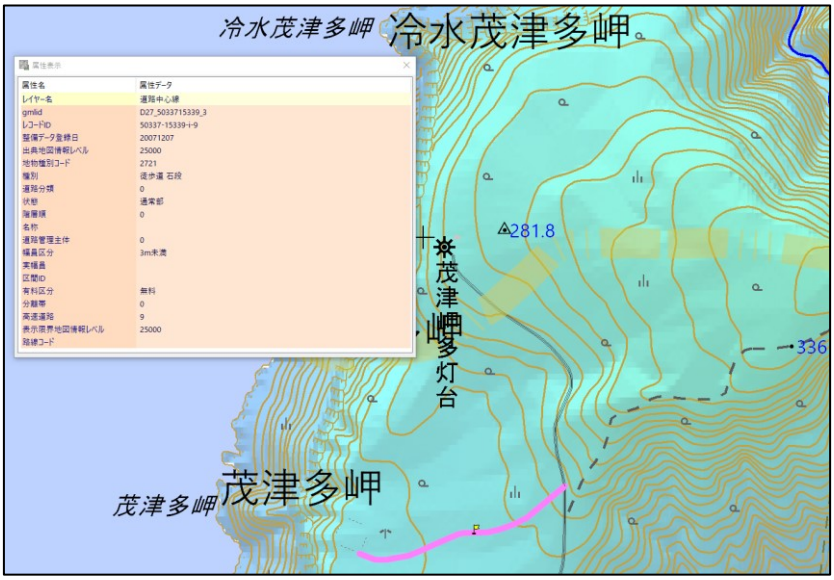
10-1.点属性照会/線属性照会/面属性照会

［**データインポート**］メニューで読み込んだデータの属性を表示します。

① メニューを実行すると、［**属性表示**］ダイアログボックスが表示されます。

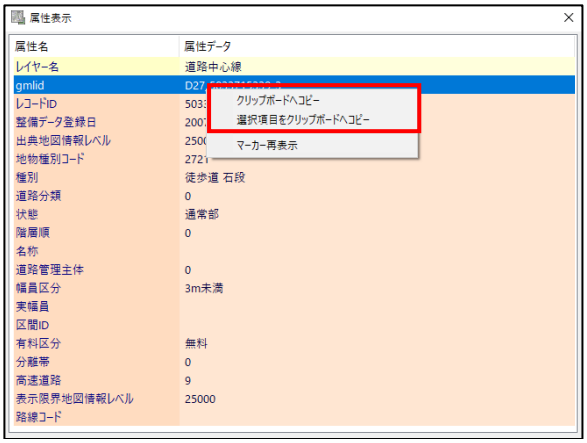


② 属性を照会する点をマウスの左ボタンでクリックすると、その位置にフラグが立ち、内容を［**属性表示**］ダイアログボックスに表示します。



［属性表示］ダイアログボックスのメニュー

ダイアログボックス内で右クリックするとメニューが表示され、クリップボードにコピーすることができます。

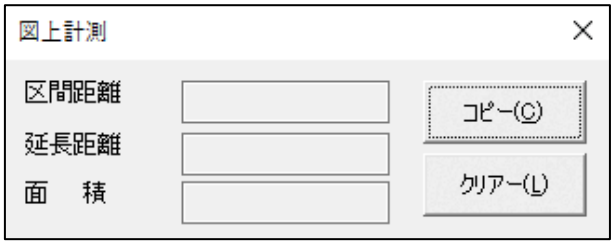


11.　［ホーム］リボン-［計測］

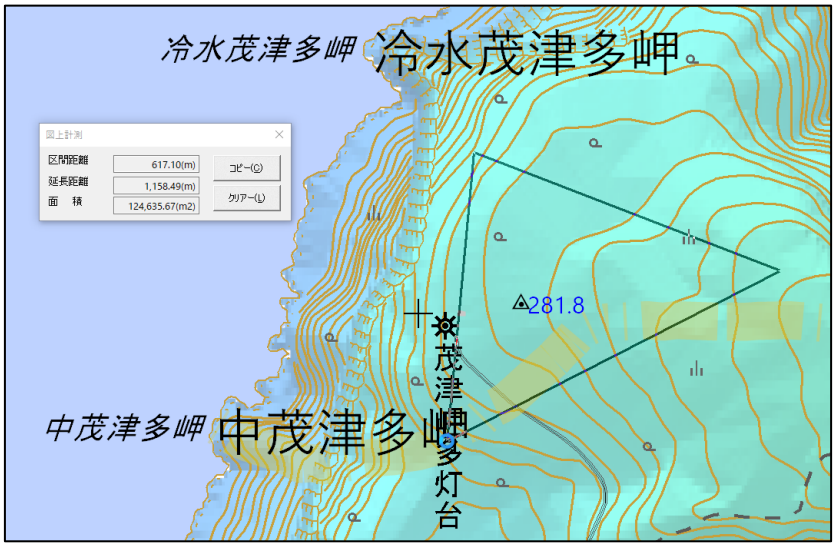
11-1.距離と面積

ウィンドウ上で、距離と面積を計測します。

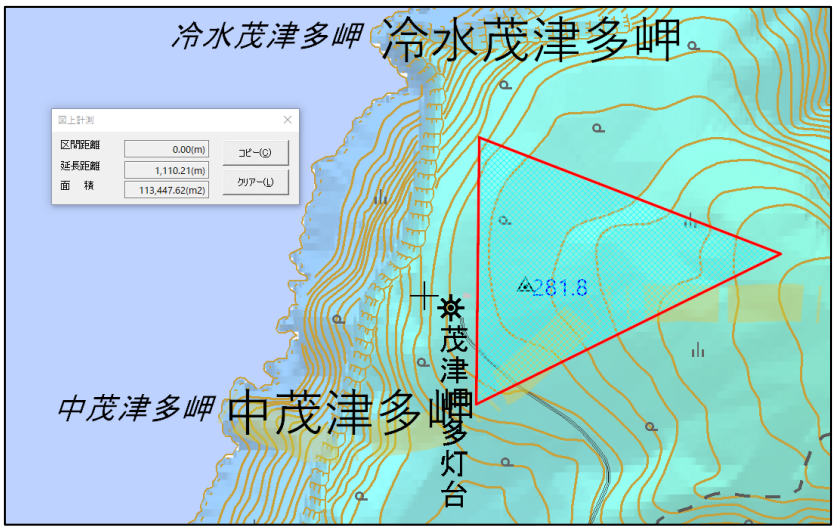
①　メニューを実行すると、[**図上計測**]ダイアログボックスが表示されます。



②　計測を始める位置にマウスを動かし、マウスの左ボタンをクリックします。
開始点が確定し、計測用のラバーバンドが表示され、計測タスクが始まります。



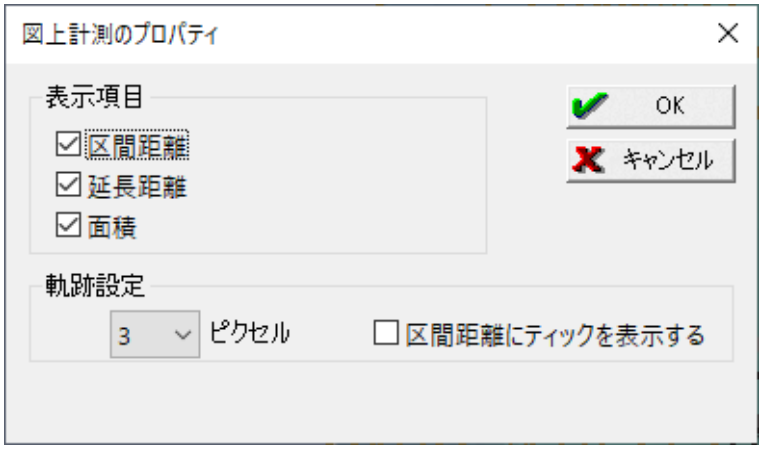
③ 計測する図形をマウスの左ボタンでトレースします。
区間距離（直前の指定ポイントから現在のポイントまでの距離）、延長距離（始点から現在のポイントまでの距離）、始終点を結んだ面積値が表示されます。
計測中に１つ前の計測点に戻る場合は、Esc キーを押してください。
計測を終了する箇所で、マウスの右ボタンをクリックすると、計測タスクが終了し、計測形状が確定します。



④ １つのタスクが終了してもコマンドモードは継続します。次の計測を行う場合は、②以降の操作を繰り返してください。
計測を終了し、コマンドモードから抜ける場合は、再度マウスの右ボタンをクリックしてください。計測形状を消すときは、[**図上計測**]ダイアログボックスの【**クリアー**】ボタンを押す、[**計測**]-[**マーカークリアー**]メニューを用いる、[**図上計測**]ダイアログボックスを閉じる、いずれかにて対応可能です。

11-2.プロパティ

図上計測の際の表示項目を設定します。
メニューを実行すると、[**図上計測のプロパティ**]ダイアログボックスが表示されます。



チェックを入れた項目が表示されます。また、プロパティから、軌跡の線幅を指定できます。**「区間距離にティックを表示する」**を ON にすると、区間距離を表す軌跡に等間隔のティックを表示します。
設定を行い、【OK】ボタンをクリックすると、図上計測時に設定が反映されます。

11-3.マーカークリアー

メニューを実行すると図上計測の際に作成された形状をクリアーします。

12.　［データ一覧］右ポップアップ

データ一覧バー上でマウス右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、タイトルの変更、表示状態等の変更、登録の解除等が行えます。

<table>
<tr><td>インポートデータがない</td><td colspan="3">インポートデータがある</td></tr>
<tr><td>
</td><td>
</td><td>①の階層での
右ボタンポップアップ
・表示
・非表示
・このデータの領域表示
・透過率
・タイトル変更
・登録解除</td><td>②の階層での
右ボタンポップアップ
・表示
・非表示
・このデータの領域表示
・透過率
・KML/KMZ への
エクスポート
・タイトル変更
・属性表示設定
・線描画設定
・面描画設定
・シンボル描画設定
・登録解除</td></tr>
<tr><td>右ボタンポップアップで
［タイトル変更］のみ可</td><td colspan="3">で展開
で展開を閉じる
で表示の切り替え</td></tr>
</table>

12-1.表示/非表示

メニューを選択すると、該当データの表示状態を切り替えます。

12-2.このデータの領域表示

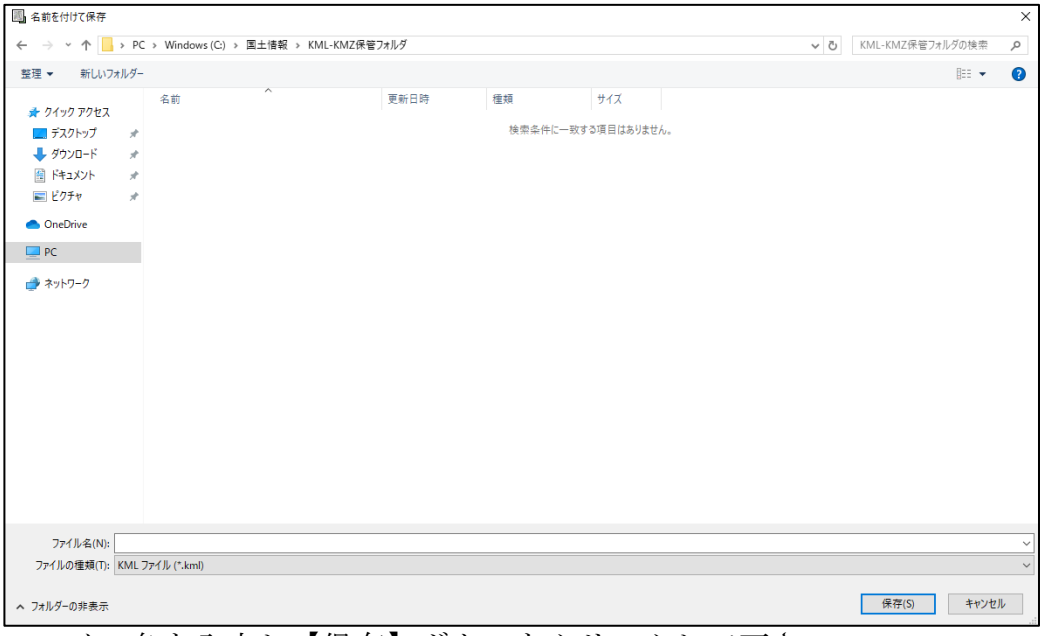
該当データが存在する範囲で領域表示を行います。

12-3.透過率

データの透過率をプルダウンから設定します。

12-4.KML/KMZ へのエクスポート

メニューを選択すると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



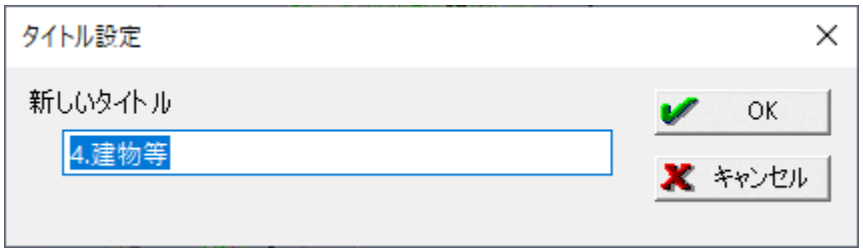
ファイル名を入力し【保存】ボタンをクリックして下さい。

※「3-7.環境設定」で選択した注記の位置設定によってエクスポートされるポイントデータが異なります。

例）

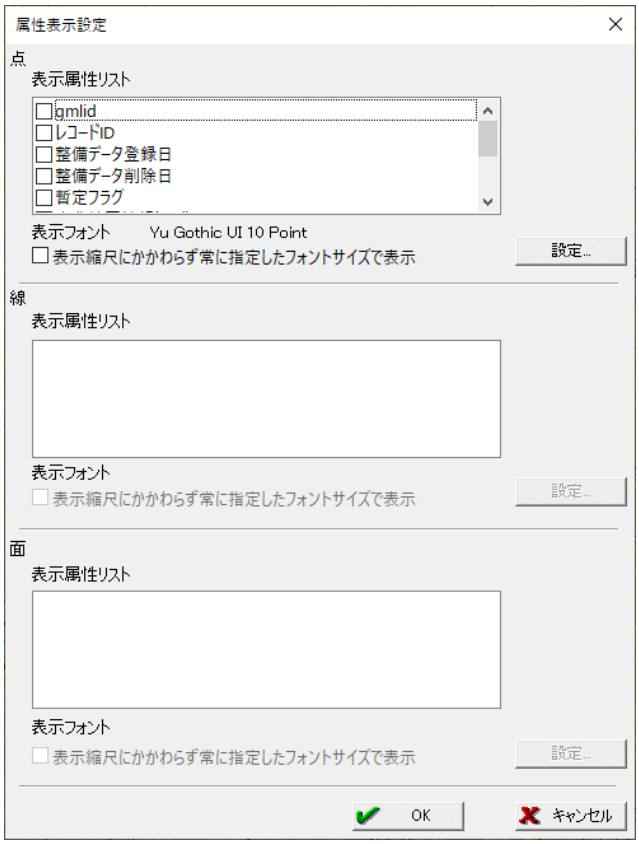
12-5.タイトル変更

メニューを選択すると、［タイトル設定］ダイアログボックスが表示されます。新しいタイトルを入力して【OK】ボタンをクリックすると、名称が変更されます。



12-6.属性表示設定

メニューを選択すると、［属性表示設定］ダイアログボックスが表示されます。
表示させる文字列のチェックボックスを ON にしてください。
表示フォントを変更する場合は、【設定】ボタンをクリックすると開く［フォント］ダイアログボックスで設定してください。
「表示縮尺に関わらず常に指定したフォントサイズで表示」チェックボックスを ON にすると、表示縮尺に連動して文字のサイズが変化します。
OFF の時は、表示フォントで設定されたサイズに固定されます。

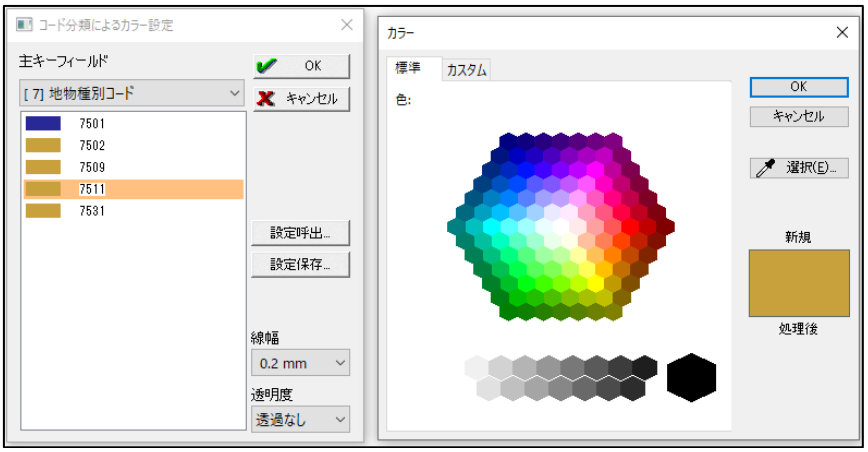


12-7.線描画/面描画設定

インポートデータの種類が線又は面の場合にこのメニューを選択できます。

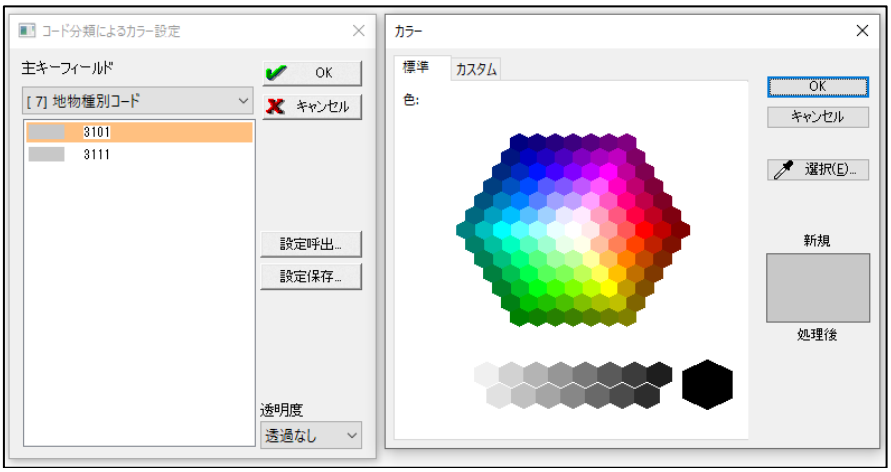
線の場合

［コード分類によるカラー設定］ダイアログボックスが表示されます。
主キーフィールドのプルダウンから主キーを選択し、変更するリストをダブルクリックすると、［カラー選択］ダイアログボックスが表示され、色の変更を行うことができます。「線幅」、「透明度」はプルダウンから選択できます。
変更した設定を【設定保存】ボタンで保存し、【設定呼出】ボタンで保存した設定を反映することができます。



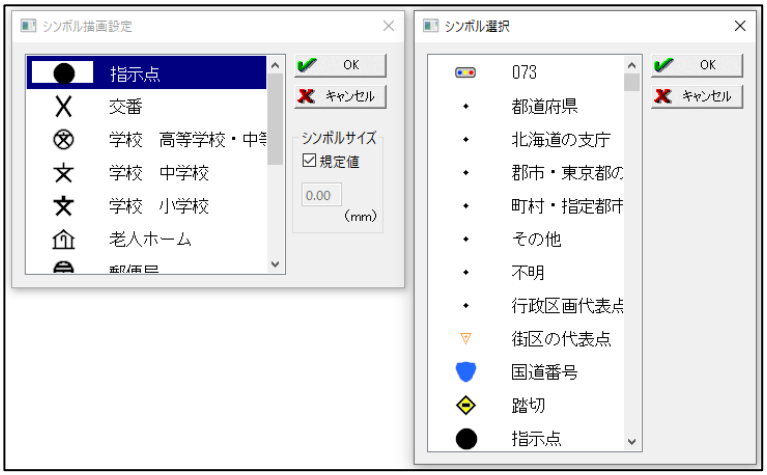
面の場合

［コード分類によるカラー設定］ダイアログボックスが表示されます。主キーフィールドのプルダウンから主キーを選択し、変更するリストをダブルクリックすると、［カラー選択］ダイアログボックスが表示され、色の変更を行うことができます。「透明度」はプルダウンから選択できます。変更した設定を【設定保存】ボタンで保存し、【設定呼出】ボタンで保存した設定を反映することができます。



12-8.シンボル描画設定

インポートデータの種類がシンボルの場合にこのメニューを選択できます。



変更するリストをダブルクリックすると、［シンボル選択］ダイアログボックスが表示され、シンボルの変更を行うことができます。
「シンボルサイズ」は「規定値」チェックボックスを外すことにより、テキストボックスでサイズ指定が行えます。